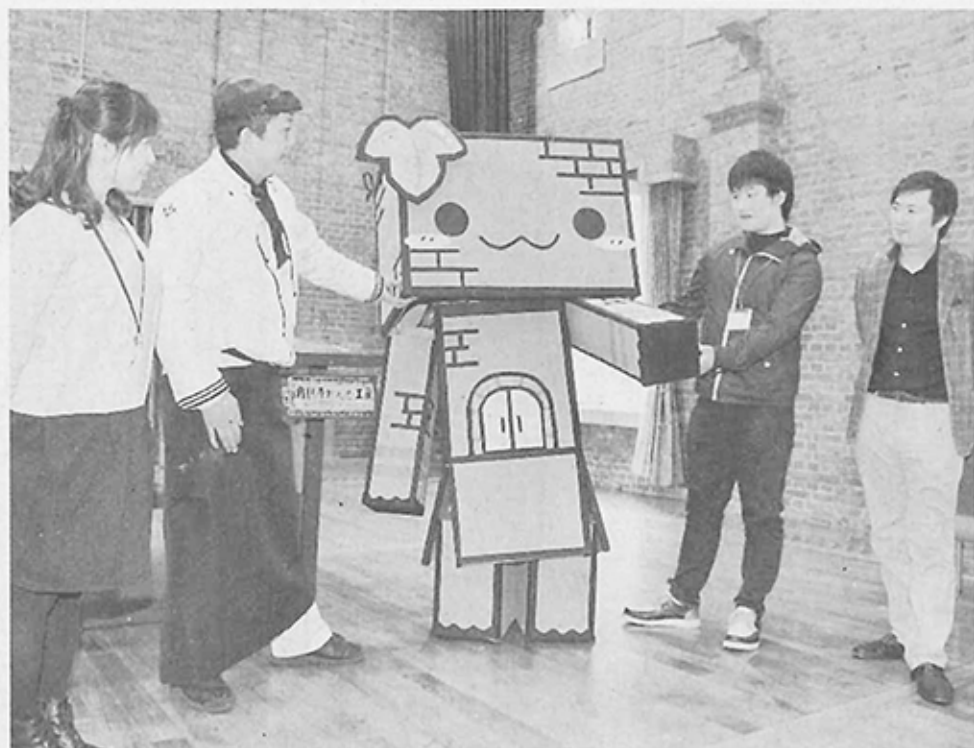


舞 鶴

「赤れんが条例」提案

研究会 ゆるキャラ候補も披露



マスケットキャラクター候補「レンガ」(中央)など、赤れんがを前面に押し出したまちづくりのアイデアが披露された報告会。右端は杉岡さん＝舞鶴市北吸の赤れんがパークで

府立大の研究者や事業者などをつくる「舞鶴赤れんがまちづくり研究会」の成果報告会が24日、舞鶴市北吸の赤れんがパークであった。まちづくり条例案をはじめとする政策提言、マスケットキャラクター候補「レンガ」や、PR製品などが披露され、旧海軍の遺構・赤れんがを特色にした地域づくりなどを市民にアピールした。

研究会は、連携協力包括協定を市と結んだ府立大が、地域貢献型特別研究の一環として

昨年設置。市民・市職員が公共政策を学ぶ「政策づくり塾」で指導した杉岡秀紀・府立大講師を研究代表者に、教授、塾卒業生の市職員らがオブザーバーの学生とともに、舞鶴に縁の深い赤れんがを地域資源として生かす策を3年計画で議論している。

この日発表された「赤れんが景観条例」案は、各地の景観条例や、京都市が13年に施行した「日本酒で乾杯条例」などを手本に、市民参加の地域デザインを促すために作成。歴史的建造物を保存する一方、「平和で暖かな赤れんが色」を市の街並みの基調にするよう、市や市

民の責務、景観形成地域・基準の指定、景観を形成しようとする者に対する市の金銭・技術援助などを盛り込んだ。

また、会員の建材会社社長、森本隆さん(42)が「レンガ」や、子供の工作にも使える赤れんが風壁材とそれを生かした売店(キオスク)の試作を発表。「レンガ」は学生のアイデアを基にれんがの四角いフォルムで五体を形成し、つたを髪飾りにした愛らしいデザインに来場者が見入っていた。

杉岡さんは「舞鶴にとって必要なまちづくりの鍵をいくつか示すことができた」と話した。【鈴木健太郎】